

みやぎ生協

● コープ東北サンネット事業連合「ゲルマニウム半導体検出器で検査開始」

コープ東北サンネット事業連合では、取り扱い商品の放射性物質の測定について、これまで外部検査機関に依頼していました。今回、商品検査センターに放射性物質測定機器を導入し、5月7日（火）より検査を開始しました。

6月20日現在までに59商品の検査をしましたが、検出限界値を超えた商品はありませんでした。検査結果はホームページや店舗の掲示板でお知らせしています。今後も、商品を安心して利用いただけるように、検査を進めてまいります。



(品質管理室室長 雫石清志)

1. 導入機器:『ゲルマニウム半導体検出器』

放射性物質の測定器には、「シンチレーション検出器」もありますが、精密な測定ができる「ゲルマニウム半導体検出器」を導入しました。

2. 処理能力:年間1,000検体以上

東北地方のサンネット加盟生協からの受託を含めて活用していきます。

3. 検査計画:2013年度600検体(予定・摂取量調査含む)

COOP商品、めぐみ野(産直品)商品や魚介類、アクアクラ水、および取扱量の多い一般市場品等を計画しています。

4. 検出限界値(単位:Bq/kg)

食品群	セシウム134	セシウム137
飲料水(飲料茶含む)	1	1
牛乳・乳児用食品	5	5
米	5	5
一般食品	10	10

(基準値)  
飲料水(飲料茶含む)10、牛乳・乳児用食品50、米100、一般食品100

生協あいコープみやぎ

● 津波被災地・若林区七郷の農地に風車が立ちました！

2011年3月11日、津波が到達した仙台市若林区七郷地区の田畑は瓦礫で埋まり、ビニールハウスは流され、まったく耕作できない状態に陥りました。その後、多くのボランティアが大

小の瓦礫を取り除く地道な支援を続けてきました。あいコープ「えんのう」グループも、産直生産者である「七郷みつば会」の耕作再開へ向けた援農活動を継続してきました。

これらの支援に勇気を得た七郷みつば会の生産者は「農事組合法人クローバーズファーム」を設立し、国や県の補助を受け、農業復興の拠点として、約1000坪の農業ハウスをこの3月に完成させました。今後はトマトと

葉物を組み合わせ、通年栽培を行う計画になっています。

そしてこのハウスの傍らに、小風力発電システム、BMW 活性水プラント、堆肥舎をあいコープみやぎから寄贈しました。風力発電の出力は5kwでハウスに必要な電力の一部を賄います。

風車は七郷地区の復興のシンボルとして「自然エネルギーで農業復興を！」というメッセージを発信しながら元気よく回っています。(商品部 高橋正人)



ハウスの側に立つ風車

食のみやぎ復興ネットワーク

● 「菜の花を見る会」開催報告

食のみやぎ復興ネットワークでは、津波被害を受けた岩沼の農地に塩害に強い菜種を植えて、被災した生産者と地域を応援する「なたねプロジェクト」に取り組んでいます。

「菜の花の咲く風景」と、菜の花蜂蜜、なたね油とその加工商品づくりを通じて、地域の復旧復興を励ましています。

5月15日（水）岩沼市早股の農地で「菜の花を見る会」を開催しました。菜の花畑の真ん中

に会場を設け、これまでの活動を振り返りながら、昨年商品化した「なたね油」で揚げた野菜の天ぷら、県産米で作ったおにぎりを振る舞いました。周辺にお住まいの方々など150人が参加しました。

5月23日（木）には「坊っちゃん石鹸」とのコラボ商品「なたね油の石鹸（製造畑惣商店）」が、みやぎ生協全店で発売されました。坊っちゃん石鹸は、素肌への優しさにこだわった無添



なたね油の石鹸  
（上）100g398円  
菜の花畑を走り回る  
子どもたち（右）

加の石鹸です。原料の一部に「なたね油」を使用し、冷い水でも溶けやすく、あわ立ち細かいお肌に優しい石鹸に仕立てました。  
（みやぎ生協店舗商品部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝）

女性ネットみやぎ

● 「結成1周年のつどい」開催報告

宮城県内の幅広い女性達が参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（以下「女性ネットみやぎ」）の結成1周年のつどい「守りたい！明日につながる輝く笑顔」が、5月25日（土）宮城野区文化センターコンサート

ホールで開催され、360人が参加しました。この女性ネットみやぎには、呼びかけ人として、みやぎ生協齋藤昭子理事長が参加しています。

第1部は各地の取り組み紹介として、仙台市で活動している「母子週末保養プロジェクト」、「美里町女川原発再稼働ストップの会」、「みやぎ脱原発風の会」から活動アピ

ルがありました。その後、「女川原発を廃炉にする会代表」で、元鹿島台町長の鹿野文永さんから「私はなぜ原発に反

対するのか」という演題でお話がありました。  
第2部はクライナ生まれで、チェルノブイリ原発事故により原発からわずか3.5キロで被曝され、現在、日本で演奏活動を行っているナターシャ・グジーさんのコンサートでした。

ロビーでは「子どもたちに原発のない社会を」の154筆の署名を寄せていただきました。

女性ネットの思いや、これからの活動に向けて連帯していくことを確認した会になりました。  
（みやぎ生協生活文化部・女性ネットみやぎ事務局 昆野加代子）



ナターシャ・グジーさん(中央)と記念撮影

大学生協東北事業連合

● 「未来の大学生応援募金贈呈式」報告

2012年は、被災した子供たちへ経済的な支援と共に、大学生とのふれあいを通じて進学の希望を育むことを目的とし、東北の大学生協は「未来の大学生応援募金」に取り組みました。募金の目的は、①被災影響の大きい高校（後援会）に義援金を贈呈すること②学習指導ボランティアの運営費用の一部とすることです。全国の大学生協の皆様並びにお取引先様等の多大なご協力があり、4月5日現在で、10,969,174円が集まりました。

3月18日（月）宮城県石巻地区の高校（8校）に贈呈に伺い

ました。校長先生に、震災後の生徒の皆さんの状況をうかがったところ、「高校に進学するモチベーションが低下してい

る。」と話され、理由として「進学意欲の高い家族は、他地区(主に仙台)に移ってしまう。」「津波等で片親になってしまい、子供への関心が低下し、子供たちが目標を見失ってしまっている。」など挙げられました。義援金は、オープンキャンパス交通費の補助金に使用される高校や、「赤本や大学調査用のPC



石巻西高校にて板垣理事長より齋藤校長(右)へ



市立女子商業高校にて板垣理事長より狩野校長(右)へ

を更新する。」「部活動の遠征や合宿費用に使用したい。」など様々ですが大変喜ばれています。

今後も東北事業連合では、被災地域の子供たちへ学習支援等を通して、未来の大学生を応援する形で震災復興をすすめてまいります。

(常務理事 峰田優一)

宮城労働者共済生協

● 全労済協会主催 講演会「復興への基軸～世界の構造転換と日本～」開催報告

5月11日（土）(財)全労済協会主催（共催：全労済宮城県本部）による講演会「復興への基軸～世界の構造転換と日本～」が、仙台市宮城野区の仙台サンプラザホテルで開かれました。

東日本大震災から2年2ヶ月が経過した今も、被災地では、

復興にむけて「生活・雇用」「防災のまちづくり」等、数々の課題が山積しています。課題が山積する被災地の復興について、第1部では日本総合研究所理事長の寺島実郎さんから、被災地のこれから、そしてさらには世界の中の日本社会のこれからに

ついて、幅広い見地からご講演をいただきました。

第2部では、奥山恵美子仙台市長、石川幹子岩沼市災害復興会議議長に、寺島さんを交えて「被災地の復興に向けて」をテーマに、復興の現状と課題について鼎談（座談会）を行い、約400人が熱心に耳を傾けていました。

全労済宮城県本部では、これからも復興への取り組みと防災・減災に関する活動を続けてまいります。

(専務理事 阿部田克美)



寺島実郎さんの講演会の様子(写真左)  
鼎談の様子(写真右)左から寺島実郎さん、奥山恵美子仙台市長、石川幹子岩沼市災害復興会議議長